

ボツリヌス(ボトックス)療法について

痙縮(けいしゆく)

- 筋肉が緊張しすぎてしまう状態で、手足がこわばったり、つっぱったりします。
- 片まひとつい側の手足にあらわれることがほとんどです。



脳卒中の後遺症、脊椎損傷、頭部外傷などが原因で、運動障害の一つに痙縮という症状があります。痙縮とは筋肉が緊張しすぎて、手足が動かみにくい、勝手に動いてしまう状態のことです。症状は、手指が握ったままと開こうとしても開きにくい、肘が曲がる、足先が足の裏側のほうに曲がってしまうなどがみられます。痙縮による姿勢異常が長く続くと、筋肉が固まって関節の運動が制限され(これを拘縮といいます)、日常生活に支障が生じてしまいます。また、痙縮がリハビリテーションの障害となることもあるので、痙縮に対する治療が必要となります。

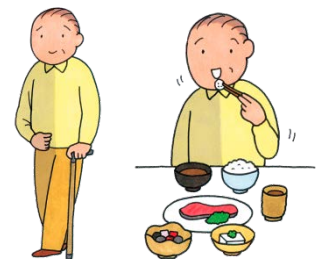
ボツリヌス療法とは

ボツリヌス菌(食中毒の原因菌)が作り出す天然のたんぱく質(ボツリヌストキシン)を有効成分とする薬を筋肉内に注射する治療法です。

ボツリヌストキシンには、筋肉を緊張させている神経の働きを抑える作用があります。そのためボツリヌストキシンを注射すると、筋肉の緊張をやわらげることができるのです。ボツリヌス菌そのものを注射するわけではないので、ボツリヌス菌に感染する危険性はありません。当院では手足(上肢・下肢)の痙縮を中心に行ないます。

ボツリヌス療法の効果

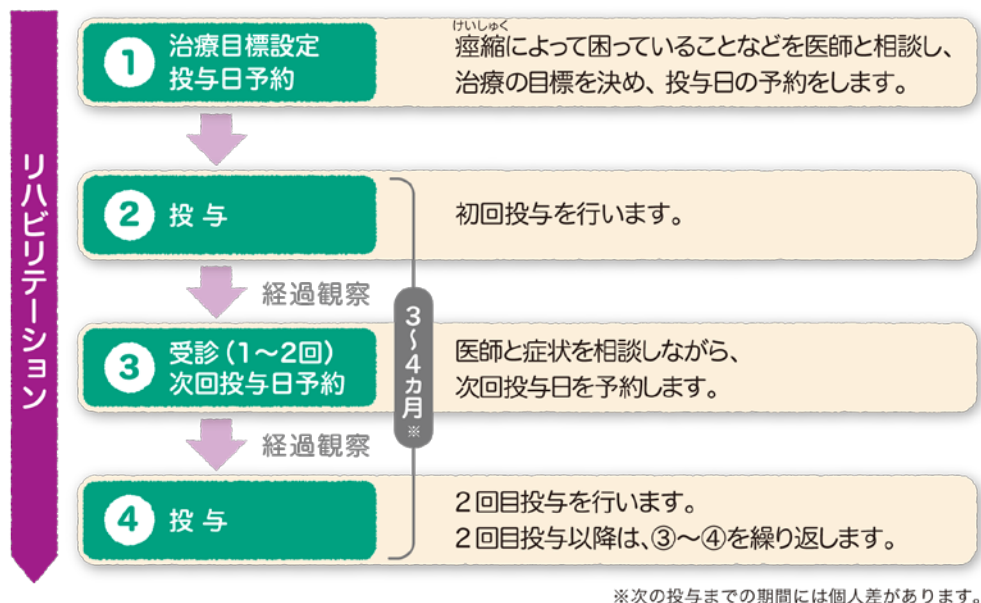
- 手足の筋肉がやわらかくなり、動かしやすくなるので、日常生活動作(ADL)が行ないやすくなります。
- リハビリテーションが行ないやすくなります。
- 関節が固まって、動きにくくなったり、変形するのを防ぎます。(拘縮予防)。
- 痛みをやわらげる効果が期待できます。
- 介護の負担が軽くなります。



ボツリヌス療法を行った後、リハビリテーションを組み合わせることで効果が期待されます。

ボツリヌス療法の治療スケジュール

● 治療スケジュール例



この治療に対するお問い合わせは

井野辺病院 外来まで
代表 097-586-5522